

矢崎科学技術振興記念財団

研究助成16人が決定

矢崎科学技術振興記念財団（東京・港区、細川興一理事長）は科学技術の発展を目的に、その成果が科学技術の進歩に大きく貢献すると考えられる研究（新材料、エネルギー、情報の各分野が対象領域）を選考し、研究助成事業を行っている。このほど2020年度「研究助成金」受領者16人が決定した。「一般研究助成（200万円）」は筑波大学数理物質

系教授の所裕子氏ら5件、原則35歳以下の若手研究者が対象の「奨励研究助成（100万円）」は岡山大学自然科学研究科助教の鈴木弘朗氏ら10件を選定した。

質の高い高齢者・身障者支援技術の開発、革新的なモビリティ社会の創出を支える支援技術についての研究に対する「特定研究助成（1000万円）」には東北大学多元物質科学研究所教授の本間格氏が選ばれた。

過去に同財団から研究助成を受け、優れた業績をあげた研究者に授与する「矢崎学術賞」では、功績賞に東京大学大学院工学系研究科教授の田中雅明氏、奨励賞に東京大学物性研究所量子物質研究グループの三輪真嗣氏がそれぞれ選定された。

今回の贈呈式は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえて中止した。

同財団は矢崎総業の創業40周年を記念して科学技術にかかわる研究開発助成と振興を図り、公益の増進と活力ある社会実現に資することを目的に1982年に設立された公益財団法人。